

第 13 回幹事会から得られた今後の検討事項

【① 施策の認知度向上のための情報発信の強化】

- 多言語音声翻訳技術やテレワークなど、日常生活で活用できる施策が進展しているが十分にその成果が伝わっていない。多様な人たちが認知できるように情報発信を強化していく必要がある。

【② 2020 年以降も利用できる「仕組み」の提供】

- アクションプラン及び提言の施策を、2020 年以降もレガシーとして使い続けられ、様々な社会活動の基盤となる「仕組み」として提供していく必要がある。

【③ 官民の役割分担】

- レガシーに向けた重要なポイントとして「官民の役割分担」がある。国が最初のきっかけを作り、その後を民間で引き継いでいく等の戦略的ストーリーを議論していく必要がある。